

新社会

つくば

発行：新社会つくば

TEL 029-857-1154 FAX857-1254

金子 かずお気付

kaneko@max.hi-ho.ne.jp

<http://kanekokazuo.hakurakuryo.org/>

2018年 1月30日 第1060号



議会質問・一般質問から

新社会つくば版は議会活動や市政の報告、地域との係わりなどを中心に報告していきます。

議会の一般質問は質問・答弁を全文掲載していますので、質問者の意図を把握した答弁になっているかなど皆さんの判断でお読みください。

つくば特別支援学校の過密状況の解消についての取り組みは③

県にどのような対応をしていたのか

質問・金子かずお議員

人は変わっても事業は継続になりますから、何らかの形できちっとしている部分があるというふうには思うんですが、私は、そこが重要だったと思うんですよ。協議をした上で、例えば、どうしてもやむを得ず分離する、分校

旗開きに参加する

茨城ユニオン・ネットワーク 500・東日本NTT関連労働組合の3団体による合同旗開きが27日、土浦市内で開催された。

当日は各分会からの参加者や新たに組合に加わった仲間からも挨拶を受け、お年玉くじなどで楽しいひと時を過ごしました。また、つくば市内では25日、筑波研究学園都市研究機関労働組合協会の旗開きも開催され、両旗開きに金子かずお議員が参加した。

するということはある。それはわかりますよね。だけれども、はなからそういうふうと言われて、自分たちの学区の子供たち、普通の学級でいえば、普通のつくば市内に学区を持つ子供たちですよ。そういう子供たちが遠くのほうに通うことはもうわかるわけです。それで、なおかつ、私に言わせてもらえば、秀峰筑波義務教育学校ができて、つくば市内に、あき学校ができるのはわかっているわけですよ。だったら、なぜそういう形をその時点で提言していかなかったのか、これは大きなミスだと思うのですよね、そういう意味では。それで、いや耐震がどうだこうだと言いますよ、必ず。まだ話してないですから、何と返事するかわかりませんけれどもね。だけれども、実際に耐震の費用だってなんだって、八郷南中学校に費用負担かけて、もう来年か再来年入れるようになっていくわけですね。そういうことで見たら、ちゃんと金出して直しているのですよ。それを計画的に、つくば市の教育委員会からそういう要請があって、じゃあ開校少し待って、それで一緒のところにやりましょうという話に持っていくのが普通じゃないですか、市の教育委員会としては。そのことについては何ら話がなかったのかどうか、非常に残念だと思いますけれども、いかなものでしょう。

県は広範囲で多様なニーズに

対応する必要もあるのか

答弁・門脇教育長

大変申しわけないことですが、平成 27 年 7 月と平成 28 年 7 月は、私が不在でありましたので、本当に細かいことは、なぜそういうような要求をしなかったかというようなことについては、具体的に説明することはできないのは大変申しわけなく思っております。

けれども、県の説明によれば、新設校の設置場所として、先ほど議員からありましたとおり、八郷南中学校を選定したという理由としては、茨城県全体の児童生徒数の将来推計によると、つくば特別支援学校のほかにも周辺の土浦市の特別支援学校も過密状態、友部の特別支援学校も増加が予想されているため、三つの学校に適應するというような必要から、この三つの学校のほぼ中心部に当たる石岡市に決めたというようなこともあるようです。また、この八郷南中学は、比較的新しい校舎であったために、転用が可能だというふうな県の判断があったようです。また、あき学校がそのまま特別支援学校に利用することができないというような事情もあったというふうに聞いております。

また、この特別支援学校というのは、四つの条件を備えている必要があるということで、まず一つ目は、学校周辺の道路が複数のスクールバスが通行できる道幅がないといけないということが一つ目。それから、敷地内に複数のスクールバスが出入りする必要があるということが二つ目。それから三つ目ですが、児童生徒の安全な乗りおりと駐車のためのスペースが必要であるということ。

さらにいえば、児童生徒数が 200 人ということ、普通、特別支援学校と

いうのは、児童生徒 2 人に対して教員が 1 人張りつくというような形になっておりますので、児童生徒数が 200 人を想定すると、100 人の教員の駐車スペースも必要だと。また、この学校に通う保護者は、かなり広範囲から通ってくるということで、保護者の駐車スペースも必要だということで、敷地内に相当広い駐車スペースが必要だというふうな条件を満たさないといけないというようなこともあって、県では八郷南中学校を選定したというようにも聞いております。

これまでの議論は生かされているのか

質問・金子かずお議員

条件はいろいろあるかというふうに思いますよね。それは全部解決できない問題ではないですよ、やろうと思えばできるわけですよ。現に八郷の南中学校だって、補強して使えるように直したわけですよ。それは、条件的に直近で建てたものだったかもしれないけれども、そういうことをしているわけですよ。

そのときに、私が一番悔しいのは、なぜつくば市から、そういう提案、例えば、何年か後には、あき教室になるところがある。お金をかけるんだったら、全部壊してからつくったっていいんですよ、そう思いませんか。できないは別ですよ、考え方としては。そういうことを、どうして、それをやれと言わないけれども、どうして、つくば市からニーズとしてないわけじゃないですよ、何も意見がなかったわけじゃない。

以前に、つくば市議会には幾つかの請願が出ているんですよ。つくば養護学校にかかる施設拡充についての意見書だとか、つくば市に新たな特別支援学校新設を求める意見書とかですね、これは途中で取り下げをした経緯があ

りますけれども、旧上郷高校跡地に特別支援学級を新設する、こういうのがニーズじゃないですか。ここで話されたこと、そういうことからいけば全然ニーズがなくて、何もこれらに気がつかないで通り過ぎたというのは非常に問題だったと私は思いますね。

そのほかにも、議会で何人かの方が質問しているんですよね、このことについても。そういうことで、私はその経過の中でせつかくチャンスがあって、できるかできないかわからないですよね、それはやってみなくちゃわからない。だけれども、一言もそういう話が、先ほどの話では提言がなかったような話でありますから、まことに残念でしようがありませんね。

これは結果で、そういう形になりましたから、これ以上言ってもしようがありませんけれども、ただ、そういう状況の中で、市長公約事業としてロードマップにまとめられている中で、特別支援学校の過密状況ということについて県のほうに要望が出ているということは、せめてもの私から見たら救いですよね。

だけれども、現実的には、本当にそこを利用している、あるいは利用しようとしている人たちの保護者が必要だったものは、そのまま置き去りになっている。そして、ここに書かれているものが、これは公のものですから、どのように進めていくかということは、これはわかりません、県のほうに提案されているわけですがけれども。だけれども、このところに記載されているものも重要ですがけれども、私は通常の特別支援学校が必要だったと思うんですよね。ですから、そういう意味からいけば、まだ、つくば市はこれから、そのことについては真剣に考えていくことがやっぱり問われていると思うんですよね。そういう意味で、どのよう

な形でこのことについて取り組んでいくのかということをお聞きしたいというふうに思います。

市としては特別支援学校の高等部ないし高等特別支援学校の誘致を要望

答弁・門脇教育長

先日議員からの質問があったときに、私としては、当然そういうような請願その他があったということは聞いておりましたので、それに基づきながら県のほうに正式な要望書がもう出ているというふうに考えておりました。

私の答弁書の中には既に何回か出しているというふうに、原稿の段階では書いていたんですけれども、これは全く出しておりませんというような事務局からの情報がありますので、その部分は削除しました。初めて、ですからことしは、先の質問にも答えましたけれども、市長名で県知事に文書で要望を出したのは、ことし8月1日が最初だということで、私もいささか驚いたというようなことをございます。

また、その要望書の内容については、きのうの質問にもお答えしましたけれども、特別支援学校の高等部ないし高等特別支援学校をつくるというような方向で考えて要望も出しておまして、つくば市としてはそういう方向で、今後は、かなり強く県のほうに要望していきたいというふうに思っております。

なぜその要望をしなかったのか、また要望内容に伴い市長の考えは

質問・金子かずお議員

ここまで話をさせていただきました。そういう意味では、市長が公約というか、市民との約束をしているものの中にそのことが書かれている部分がありますので、せつかくの機会でありますので、市長にもお尋ねをしたいというふうに思っております。

早い段階で協議をしていけば

答弁・五十嵐市長

議員のご指摘は本当にごもつともであります。もう何の反論もできないんじゃないかと思うぐらい、本当になぜその要望をしなかったのかということは、結局、現場に非常に大変な負担と心配を今引き起こしてしまっているなという印象を持っております。

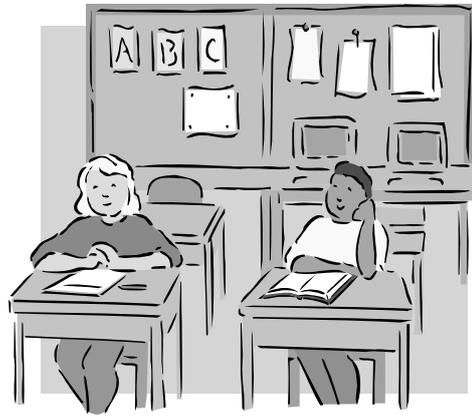
先般、県への要望を出しに行きました。その中でも、橋本知事に、廃校の跡地をぜひ使ってほしいという話をしたら、それは今の支援学校から距離は近いのかとか、かなり具体的な部分にまで踏み込んで話はしたんですね。でするので、もし、今さらもうこれは言っ

ても始まりませんけれども、早い段階で協議をしていけば、実現は十分可能だったんじゃないかなとも思いますし、今般、石岡とつくばみらいに分けても、このつくば特別支援学校の過密は、現実として全く解消されないわけなんですよね。あの学校自体としての過密を根本から解決するためには、つくば市内にもう一つ特別支援学校が必要であるという思いは、これはどのような状況になっても変わりませんので、今回出した要望というのは、当然要望としては継続されますので、新しい知事にもぜひご理解をいただいて、粘り強くご説明をして、その活用についてご検討いただけるような機会を持てればいいというふうに考えております。

要望をしなかったのは千載一隅のチャンス逃がしたのかも

質問・金子かずお議員

つくば特別支援学校が引き続き過密になっていくということについては、私も全くそのとおりでと思うし、現実的にそのような状況になることは想定できます。ですので、この問題はこれ



で解決するという形ではないというふうに思います。そういう点では、ぜひとも諸条件がそれぞれ少しずつ変わるかもしれない、千載一遇のチャンスを逃したかもしれませんけれども、じゃあ、その2番目のチャンスを自分たちの手で作り上げていくということが、これから重要だというふうに思います。そういう点では、引き続き課題があるというふうに思っておりますので、そここのところは十分心にとめてよろしくお願ひしたいなというふうに思います。

それから、もう一つの支援学級の関係でありますけれども、これは先ほど教育長が何点か、変化に対しても心配なことがあるということはありませんでした。私もそうだと思います。普通、健常の子供でも、非常に大変大きな経験だというふうに思いますから、そうじゃないところでサポートが必要な子供たちが、どれだけ大変な思いをするかというのは一つあると思うんですね。

この子供たちがそこで育って行って進路を決めるときに、今のような話の中で、特別支援学校に行く子供とそうじゃない子供と分かれてくるわけですから、そういう意味では、こここのところはきちんとしっかりしていないと、将来の道筋のところでも人数がまた変わってきているという話にもつながっていったらと思うんですね。そういう点では、十分な配慮と支援が必要だということを申し上げて、私の質問を終わりにしたいと思います。